

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

あつまれば元気！ 語り合えば勇気！

2019年度大障教女性部総会

7月6日(土)、たかつガーデンにて2019年度大障教女性部総会を開催しました。昨年は、大雨が続く中での開催でしたが今年はお天気にも恵まれ、91名の参加で成立し、今年度の運動方針を確認しました。

子どもを主人公にした教育を

オープニングは、元百舌支援学校教諭の五島丸太さんによる「またせんせのおもしろ講座」でした。ギターを使って元気に歌い、見る人をひきつける面白マジックの数々、巧みな話術に参加者もひきこまれ、会場は笑顔であふれました。

前田部長は開会あいさつで、「白石正久さんの『発達の子』の本を読み返してみても、子どもたちを見守る温かい視線、子どもの心に寄り添うそんな実践を大切にしたい。子どもを主人公とした教育を、子どもの教育を守るところでありたい」と述べました。



会場には91名が集まりました

また、来賓あいさつで大障教の戸田委員長は、「改憲、消費税10%への増税、ジェンダー平等など、たくさんの重要な問題がある。参議院選挙では、積極的に参政権の行使を呼びかけましょう」と訴えました。大教組の朝妻女性部長は、「臨時教職員、空白の一日、解消」や「育児部分休業の小学校3年生まで拡大」など、長年の要求を実現させたことにふれ、組合に団結して声を上げ続けることの重要性について語りました。



各分会の様子に聞き入る参加者

各分会・専門部から活発な討論参加

討論では10分会と臨対部・青年部・栄養教員部からの発言がありました。

「空白の一日：私たちの要求がかなって来た。署名が大きくなつた。臨対の母性保護についても進めてほしい」(臨対部)、「休憩時間がとれない。3校で1人の寄宿舎の栄養職員問題。更年期への取り組み・休暇がとれるようになるべし」(中央聴覚)、「3校の寄宿舎に一人の栄養職員、仕事が回らず大変。改善を求めていきたいので、協力を」(南視覚)、「災害時に使える子育てに関する制度がほしい」(高槻)、「体育実技軽減・時短の補充等に取り組んでいきたい」(栄養教員部)、「学校建設が必要！組織拡大に取り組み署名も頑張りたい」(枚方)、「おかしなことはきちんと話すことの大切さ、働きやすい職

場を作っている。声をかけ合いながら若者とベテランが力を合わせて頑張りたい」(四條畷)、「楽しく女性部の活動をしている。学校建設に向けて保護者と共に署名に取り組み頑張った」(寝屋川)、「若者が若者に伝えていくことの大切さ、それができる職場を作っていくことの大切さを思いながら身近なところから話していきたい」(青年部)、「栄養士の時短取得時の複数配置が必要。保育所の充実。みんなで話す機会を作りたい」(交野)、「LGBTの研修がよかった。引き続きとりくみがおこなわれている」(守口)、「看護師、養護教諭の加入があった。不安なことがわからないこと等聞きやすく働きやすい職場になれば。共に頑張りたい」(平野)、「どんなハラスメントもない安心で安全な職場をめざしている」(富田林)などの意見が出されました。



池側前部長の退任あいさつ

最後に、「いきいき働ける余裕のある職場作りを求めていくのが組合、新しい制度を作るのはむしろ嬉しいが、一緒にがんばりたい」と話し、閉会となりました。

アンケートでは、成立できてよかったことや、またたせんせの講座が楽しかったこと、各分会の様子が良くなった、などの感想を多数いただきました。

大障教ホームページアドレス <http://fc06331220171211.web2.blks.jp/> Eメール アドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp



吉田拓郎の歌「夏休み」に反戦歌との評価があるらしい。「戦争で大切なものを失い、二度と戻らない切なさ」を思つて聴くと、そう感じる。もうすぐ夏休み。昔はウキウキしたけど、最近ウキウキしない。教員の仕事は結構きつい。長期休業があるから五十歳を超えても働き続けることができる。体力は物事の根幹だ。たしか、田中昌人(初代全障研委員長)が、「健康・生きる目的・なかま・経済的基盤」がその時々によって、それぞれを補完し合いながら人間は生きていくと言っていたかな。

話を戻して、七月の季節行事と言えば七夕。その七月七日は盧溝橋事件の日でもある。戦争はいつの時代も嘘で始まる。盧溝橋事件は、北京郊外で日本軍が夜間軍事演習を強行し、日本兵が行方不明になったことを口実に中国全土への侵略を開始した事件だ。

そもそも、日本が中国で軍事演習を強行することが異常だ。その四年後、太平洋戦争に突入する。満州事変から十五年間、日本は戦争を続けた。

「死者は生者に義務を課す」という言葉がある。戦中、障害者は「殺潰し」と罵られ、無権利状態で放置された。また、自らの人生や愛する人と生きる未来を奪われた人もたくさんいる。「戦争反対」と言葉にするだけで「逮捕・監禁・拷問」された日本の暗黒時代、多くの人が「お国のため」と命を終えた。しかし、それは「本当の願い」だったのか…。

歴史は連なっている。教師には、「生者」として亡くなった人の「本当の願い」に心を寄せ、今を生きる子どもたちに、「夢と希望」を語る義務が課されていると思う。(久)

新学習指導要領とシラバスの学習をしました!



青年部活動を活発にしていこう!

2019年度青年部総会

6月26日、たかつガーデンで大障教青年部の総会を開催しました。ミニ学習会のあと、議案の提案、グループ交流を行った後、今年度の青年部の運動方針が承認されました。

最初のミニ学習会では、大障教の西面副委員長が、「新学習指導要領とシラバス」をテーマに、「新学習指導要領の問題点」(2006年改悪の教育基本法を全面反映するもの)、「国の価値観を押しつける道徳の『教科化』」「教職員や学校への管理・統制を強めるもの」などや、府教委が「共通様式」をもとに各校で作成をすすめる「シラバスの現状」について報告しました。また、各学校の教育課程編成における府教委と組合との「確認点」(「教育課程の編成は各学校において行うこと」「学習指導要領は大綱的基準としてのこと」「教育内容については、基本的に命令・強制はなじまない」)が紹介され、子どもの「成長・発達」という視点をもとに、「子どもの姿やねがい」から出た教育を行うことの大

みんなで楽しく交流しました



次に、青年部常任委員から議案の提案を行いました。昨年度の主なとりくみの報告、「通学区区域の変更」など府教委の「基本方針」の問題をはじめとする教育をめぐる情勢について、そして「長時間過密労働」の解消な



どの学校現場で働きやすい職場を作るため、「沖縄問題」などから平和についてどう考えるかなどが提案されました。また、予算案については、増額が必要なほど「青年部活動を活発にしていこう」と、これからの取り組みへの参加を呼び掛けました。

後半のグループ交流では、3つのグループに分かれて「組合に入って良かったこと」というテーマで意見交換をしました。「組合を通して『仲間』とつながった」「雇用の問題で、組合に力になってもらった」「臨時教職員の働き方と賃金問題に声をあげたい」など、青年組合員それぞれが感じる「組合の良さ」について、青年ならではの等身大の言葉で語り合い、短い時間でしたが交流を深め合うことができた実りある機会となりました。

参加者の感想です!

- シラバスというタイムリーな内容でよかったです。
- いろんな方と交流できてよかったです。
- グループワークでは、組合の良いところも苦労されたことも聞くことができて充実した時間だった。

最後に、採決と退任役員のおあいさつ、新役員の紹介があり、その後閉会となりました。

大障教青年部では、子どもたちのこと、学校現場のこと、世の中のことなど、さまざまに語り合い、より良い教育に私たち自身が携わっていきたくと考えています。みなさんの要求をもとに今年度もとりくみをすすめていきたいと思えます。議案書に記載の予定を確認いただき、ぜひご参加ください。

